

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 59 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(木) }
- 12日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 13日(金) }
- 14日(土) 授業開始
- 12日(木) } 在校生成績質疑応答
- 17日(火) }
- 20日(金) } 1年次生単位履修届受付
- 21日(土) }
- 23日(月) } 2・3・4年次生単位履修届受付
(学部により受付日が異なる)
- 28日(土) }
- 29日(日) 天皇誕生日
- 5月1日(火) 祝禱日
- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) 研修日(全学休業)
- 5日(土) こどもの日
- 14日(月) }
- 23日(水) } 2・3・4年次生健康診断
- 6月1日(金) 祝禱日
- 11日(月) 卒業論文論題提出締切(正午)
- 7月1日(日) 祝禱日
- 9日(月) }
- 14日(土) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(日) 盂蘭盆会
- 16日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
- 17日(火) } (授業休講)
- 18日(水) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月10日(月) 授業再開
- 12日(水) 前期定期試験欠試届(追試申込)
提出締切
- 13日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 20日(木) }
- 15日(土) 敬老の日
- 17日(月) } 前期定期試験成績発表および再試験
申込受付
- 18日(火) }
- 23日(日) 秋分の日
- 26日(水) }
- 28日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(土) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(月) 祝禱日
- 2日(火) }
- 5日(金) } 1年次生健康診断
- 5日(金) } 達磨忌
- 4日(木) } 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ
ース指定届受付
- 5日(金) }
- 10日(水) 体育の日
- 11日(木) }
- 12日(金) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(月) 第102回開校記念日
- 11月1日(木) 祝禱日
- 3日(土) 文化の日
- 14日(水) }
- 16日(金) } 転部科試験願書受付
- 21日(水) 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 30日(金) 転部科試験
- 12月1日(土) 祝禱日
- 5日(水) }
- 13日(木) } 編入学願書受付
- 8日(土) 成道会
- 10日(月) 卒業論文提出締切(正午)
- 18日(火) 冬季休暇第1日
- 19日(水) 編入学試験

昭和60年

- 1月8日(火) 授業再開
- 15日(火) 成人の日
- 16日(水) }
- 26日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) 高祖(道元禪師)降誕会
- 28日(月) }
- 2月5日(火) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) } 定期試験欠試届提出締切
卒業論文口頭試問
- 11日(月) 建国記念の日
- 15日(金) 涅槃会
- 20日(水) }
- 21日(木) } 学部4年次生・短大生成績発表およ
び追・再試験申込受付
- 27日(水) }
- 3月5日(火) } 学部4年次生・短大生追・再試験,
学部1・2・3年次生追試験
- 3月1日(金) 祝禱日
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 21日(木) 春分の日
- 25日(月) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(9)
3.	学士号	(9)
III	授業科目の履修方法	(10)
1.	一般教育科目の履修方法	(10)
2.	外国語科目の履修方法	(12)
3.	保健体育科目の履修方法	(15)
4.	基礎教育科目の履修方法	(17)
5.	専門教育科目の履修方法	(17)
6.	随意科目の履修方法	(42)
7.	再履修科目の履修方法	(42)
	※コード番号について	(43)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(45)
1.	履修科目の登録	(45)
2.	履修届記入上の注意	(46)
3.	履修届の作成順序	(47)
V	試験および成績評価	(49)
1.	定期試験	(49)
2.	中間試験	(49)
3.	追・再試験	(49)
4.	成績評価・単位認定	(50)
5.	進級基準	(50)
6.	受験者心得	(50)
VI	クラス制およびクラス主任	(52)
VII	教職課程・資格講座	(52)
VIII	事務取り扱いについて	(53)
IX	届書・願書について	(54)
X	各種証明書取扱い窓口	(55)
	講義内容	(57)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	36	72	
	選 択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 58年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	6	24	72	
	選択		40		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科

社会学コース

A. 57年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用

社会福祉コース

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	9(10)	36(40)	72	
	選 択		28(24)		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

心理学コース

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、4年次において、（地理学科は3年次）学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て、指定の期日6月11日（月）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (3) 論文の枚数は別に指示する。
- (4) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りして右とじとする（英米文学科・地理学科を除く）。
- (5) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文提出

論文は、12月3日（月）から12月10日（月）正午までに教務部へ提出すること。

論文は、誤字、脱字、内容等について再点検し提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授（社会学科は他に定められた1名の指定教授）によって審査され、論文の内容について口頭試問を2月7日（木）に行ったのち合否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}	文学士
英米文学科		
地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
ただし、1年次において定められた科目数・単位数を履修できる学科もある。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科	分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科		16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科		16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科		12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科		16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科		12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

学科	人文分野			社会分野			自然分野		
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む選択必修科目	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	歴史学	4		地理学	4				
	芸術 (日本・西洋)	4							
英米文学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む選択必修科目	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	2科目 8単位 選択必修	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		心理学	4	
	哲学	4		社会学	4		人類学	4	
	歴史学	4		地理学	4				
	芸術 (日本・西洋)	4							
地理学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む選択必修科目	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	数学	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		物理学	4	
	哲学	4		社会学	4		化学	4	
	芸術 (日本・西洋)	4		文化人類学	4		生物学	4	
歴史学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む選択必修科目	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4		地学	4	
	哲学	4		社会学	4		心理学	4	
	歴史学	4		社会学	4		人類学	4	
	芸術 (日本・西洋)	4		地理学	4				
社会学科	宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を含む選択必修科目	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2単位)	4	3科目 12単位 選択必修	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
	宗教学 II (2年次必修)	4		政治学	4		生物学	4	
	論文	4		経済学	4		地学	4	
	歴史学	4		地理学	4		人類学	4	
	芸術 (日本・西洋)	4							

教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3 年 次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは、英会話または英語LLに代替できる (ただし英米文学科は英会話に代替できない)	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英 語 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A Ⅰ	2		中 国 語 2 A Ⅰ	2	講 読
英 語 2 A Ⅱ	2		中 国 語 2 A Ⅱ	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A Ⅰ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅰ	2	講 読
ド イ ツ 語 2 A Ⅱ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅱ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅰ	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A Ⅰ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅱ	2	講 読	ロ シ ア 語 2 A Ⅱ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通しはば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 3 A	2	講 読	3 A を 1 科 目 必 修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号(下4ケタ)により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 体 育 理 論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。
ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から、決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本 体 操 三 幣 ソフトボール 太田 トレーニング 武藤 室内球技 久保田 テニス 浅野 卓 球 秋 田 剣 道 上 山	剣 道 ◎上 山 陸上競技 森本 サッカー 原山 ソフトボール 太田 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤	ソフトボール ◎太田 陸上競技 森本 体 操 三 幣 室内球技 久保田 テニス 浅野 トレーニング 武藤 卓 球 村 松

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

火・3
室内球技◎長浜 太極拳 大石

水・1	水・2
室内球技◎原山 剣 道 上山	室内球技◎原山 剣 道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

